

## 芦屋市水道事業の概要

芦屋市水道事業は、昭和13年4月に精道村村営水道として計画給水人口50,000人、計画一日最大給水量8,250で給水を開始しました。

まちの発展に伴う人口の増加や市域の拡大に対応するために7期にわたる拡張事業を実施し、市民の皆様へ安心・安全でおいしい水の供給に努めています。

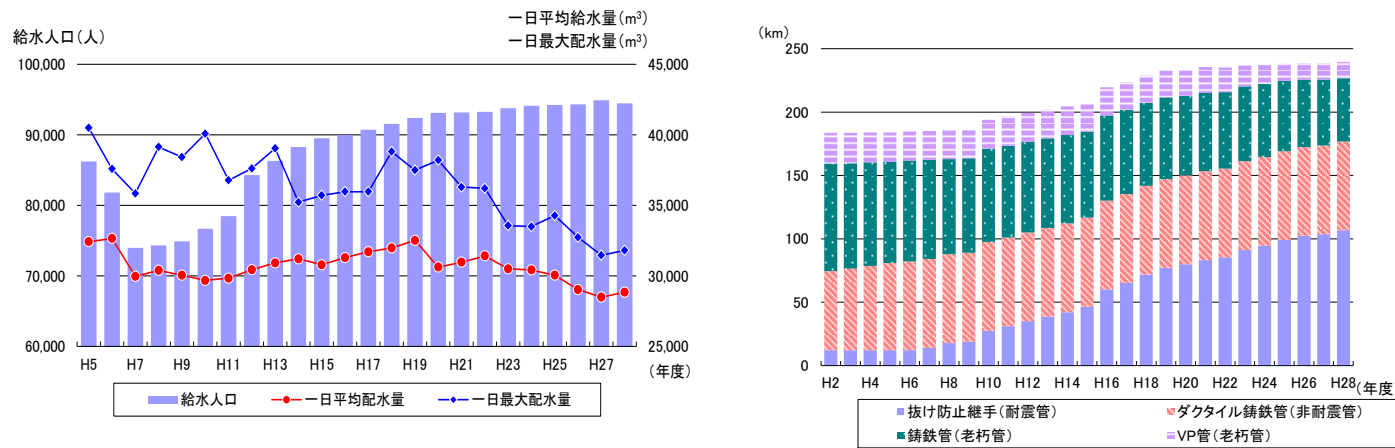
現在（平成28年度決算）の給水人口は94,474人、一日最大配水量は31,810m<sup>3</sup>です。

## 経営理念

市民に対し「安心・安全」、「持続」ある水道を目指し、より豊かで「環境」に配慮した快適な社会の創造に貢献していきます。

また、開かれた水道事業を目指し「情報公開」をより一層推進していきます。

## 芦屋市水道事業の現状と課題



・節水型機器の普及や将来的に人口減少が見込まれる等により水需要が低下する中、水道事業経営を取り巻く環境は厳しさが増えています。そのため、事業の効率化がより求められています。その一方で、昭和30～40年代以前に布設された老朽管の更新や配水池、施設の耐震補強、機器類更新に係る支出が必要となる見込みです。

## 経営目標

経営理念の実現に向けて、以下の経営目標に基づき、それぞれの目標を達成するための施策展開を図ります。

### 1 「持続ある水道」の実現

- ✓ 財政の健全化を図るとともに、効率的な水道事業を目指す。
- ✓ 蛇口から飲めるという水道文化を継承し、水道技術に携わる人材の確保及び育成することで持続性ある経営体制を目指す。

### 2 「安心で安定した水道」

- ✓ 災害に強い水道施設及び経営体制を目指す。
- ✓ 安定した水質を確保し、安心・安全でおいしい水の供給を目指す。

### 3 「環境への配慮と情報公開」

- ✓ 地形を活用した配水や再資源化によって、自然環境に配慮した水道経営を目指す。
- ✓ 水道利用者とのコミュニケーションの充実を図り、信頼される水道経営を目指す。

## 主要施策

### 1.1. 経営基盤の強化

- (1) 業務改善・効率化の推進
- (2) 計画的経営の実践の検討
- (3) 施設更新等の財源確保
- (4) 阪神水道受水費の軽減
- (5) 料金体系のあり方の検討
- (6) 未利用地の有効活用の検討
- (7) 費用の抑制
- (8) 経営戦略の策定

### 1.2. 業務の効率化

- (1) 民間活用の推進
- (2) 契約方式の見直し
- (3) 先進技術に関する調査・研究

### 1.3. 職員の資質向上

### 1.4. 広域的連携の推進

### 2.1. 資産管理の最適化

- (1) 水道施設のデータベース化
- (2) アセットマネジメントの実践

### 2.2. 水道施設整備の推進

- (1) 老朽管等の更新
- (2) 水道施設の耐震化

### 2.3. 災害対策の充実

- (1) 危機管理マニュアル・体制の整備
- (2) バックアップ機能の充実
- (3) 訓練等の実施

### 2.4. 安心・安全でおいしい水の供給

- (1) 水質管理の徹底
- (2) 貯水槽水道への指導強化

### 3.1. 環境に配慮した水道経営

- (1) 省エネルギーの取組
- (2) 「芦屋市環境マネジメントシステム」の遵守

### 3.2. コミュニケーションの充実

- (1) 広報活動の充実
- (2) 公聴活動の充実
- (3) 検針方法見直しの周知